



芝生の上でどつくばらんに話そう わがゴルフ交悠録

クラブ経営者
溝口千景

Mizoguchi Chikage

温和な彼女のどこから
人生にかけるパワーが、
これだけでも
生まれてくるのだろうか。



女優の岸恵子さんとミス長崎代表の本人。(1958年)



プロゴルファーの表純子さんと



マレーシア国王と一緒にプレイを。(2010年)

ゴルフ歴40年以上。
ゴルフへの深い愛情が、
言葉から読み取れる。



川田太三（アメリカ全米オープン審査員を
20年勤めている）



アーノルド・パーマー



タイガーウッズのキャディーと。（オーガスタ・ナショナル・ゴルフクラブ）

2004年マスターズ
観戦ツアー



中洲のママから

テレビ番組の司会へ

大中 まず、この仕事につかれたきっかけは何ですか？長崎出身と伺っていましたが、どうして博多の中洲にいられたのですか。

溝口 私の実家は造り酒屋だったのですが、残念ながら店じまいをしてしまったので、やむなく福岡にやってきました。

大中 当時は何歳でしたか。

溝口 19歳です。

大中 当時の夢は女優でしたか。

溝口 ええ、少しは憧れていました。地元を舞台にした『忘れ得ぬ慕情』（1956年）という、ダニエル・ダリユーさんと岸恵子さんが主演のフランス映画に少し出させて頂いたこともありましたので。

大中 応募されたんですか。

溝口 はい。ちょうど「ミス長崎」の時でした。18歳の終わり頃です。

大中 では、福岡に行った動機は、別に一家を支える、という理由ではなかったのですか。

溝口 いえ、それはありませんでした。単身で博多に行って、そこで撮影会やファッションモデルの仕事

をしていました。その後、しばらくしてクラブにスカウトされて、中洲で働くようになったんです。

大中 クラブ嬢（あざみ）の大山たかし会長ですか。

溝口 そうです。

大中 最初はアルバイトから。

溝口 いえ、会長に気に入られて、最初から正社員です。お店は全員制で、全国にまたがる一流人ばかりでした。作家の五木寛之さんもごひきにして頂きました。

大中 そして一躍有名になって、それからどうされましたか。

溝口 5年ほどたつてから、今度はTNC（西日本テレビ）の番組で司会にも抜擢されたんです。

大中 どんな番組ですか。

溝口 15分間の『ふくおか夜の招待席』という番組です。ホスト役は本職の安藤正春アナウンサーで、ホ

ステス役を探しておられたんです。

ホステスはやはりプロの人の方が雰囲気があつていいという事の様でした。そういった中で中洲のクラブのママさんたちが候補に挙がって、私のところにお話が来たんです。私は気軽にお引き受けしたのですが、2〜3日してよくよく考えたらとても

怖くなって、お断りしました。でも何度も口説かれて最終的にはお引き受けてスタートしました。

大中 博多の経済人を毎回呼ぶ番組ですか。

溝口 いいえ、単身赴任の方を招くのです。当時、福岡には単身赴任者が約2000人いましたが、内1割が取締役の方でしたのでその方たちをゲストとして呼びましたんです。

大中 それは上品な番組ですね。

溝口 はい。そこで皆さんの口から、福岡はこんな所ですよ、という感想を伺いながら番組を進行していきしました。『職場の花コーナー』『うまいもの屋コーナー』『グループ紹介コーナー』など盛りだくさんでしたが、素人の私でも何とか滑り出しました。

大中 なるほど、そこでインタビュの技も磨いたんですね。

溝口 そうですね。九州地区の有線放送で審査員もしました。歌手を選んで年に一度フジテレビに行つて、日枝会長ともお目にかかりました。

大中 『ふくおか夜の招待席』はどれくらい続いたんですか。

溝口 9カ月ですね。毎週火曜日夜の放送でしたので、おかげさまで

当夜のお店は大入り満員でした。録画放送の模様を皆で見ながら楽しく飲んでいただいたのが昨日のこのように思い出されて懐かしいですね。

大中 テレビのインタビュをこなすなんて、才能があつたんですね。うね。その後はどうされましたか。

溝口 その後は「あざみ」の取締役、マダムへと昇進していきしました。

躍動の人生に多彩な紳士たち

大中 取締役になったのは何歳。

溝口 28歳だったと思います。それから政界・財界の方々と交流が始まりました。中でも思い出に残っているのは、松本清張さんがテレビ放映の『黒皮の手帳』で高級クラブの女たちの世界を描くため、博多に取材に来られて、対談をさせていただいたことですね。清張さんは女山の「神籠石」と2つの水門跡を朝早くから散策されたり、案内役の郷土史家や教育委員会の人達と熱心に討論されていました。古代ロマンの世界から近代へと清張さんの興味は尽きることがないように感じたものです。そんな中で大中さんとお会いしたんですが、もう35年前くらいでしょうか。



大中 これまでの中で最高のお客様と言ったらどなたですか。

溝口 そうですね、九州電力の松尾新吾会長でしょうか。ダンディで懐が深く、とても優しい方でしたし、しかも、お付きの秘書の方もとても素晴らしい方でしたよ。それと福岡銀行の頭取だった蟻川さんも新木さんも素敵でしたね。

大中 私も蟻川さんには可愛がって頂きました。やはりトップになる人は違いますね。

溝口 そうですね。女性には優しくて、絶対に威張ったりはしませんでした。とにかく思いやりがありました。40年続いている財界博多グルメの会は現在、新木頭取が会長で、私は副幹事なんです。JR社長の石原さんや田中さんもこの会の会員です。

私にとって、こうした素晴らしい方々との出会いは財産です。いろいろと口実を設けて約束を守らない人間は駄目ですね。一度約束した以上は、例えお茶一杯でも顔を出さなければいけないというのが私の持論です。10年ほど前になりますが、「お店を繁盛させる講演会」で講師としてお話をさせて頂いたことがありま

す。薊の大山幸子ママのもとでチーママとなり、クラブ(薊)株で専務として、また自ら経営者として4店舗の喫茶店を営んで、昼夜を問わず有意義に時間を使っていたことを皆さんにお話ししたかったです。

大中 ところでゴルフとの出会いは何歳ですか。

溝口 25歳くらいでした。

大中 というと、取締役になるかならないかの頃ですか。

溝口 そうですね。とにかく人脈を作るにはゴルフが一番いいと考えたんです。天候が悪くて寒かったり、雨やいいお天気でもとにかく自然の中で終日いろんな多岐にわたるお話ができますし、その上体を動かして、落ち込んだり喜んだり、同じ空間で時間を共有出来るのはゴルフの素晴らしい特性だと思いました。

大中 ごもつとも(笑)。すると一番最初の指南役は。

溝口 当時ご一緒したのは商工会議所会頭の磯山さんでしたね。

大中 コースに行くまでには何回か練習しましたか。

溝口 ええ。スクールには入らずただただひたすら練習場に半年程通っただけです。後は自分でパターを

練習すればいいと思っていました。

大中 何回かご一緒させて頂きましたが、素晴らしいゴルフですよ。

溝口 そうですか、有難うございます。それからは、大山さんがゴルフをやりませんので、私が「あざみ」の代表として、さまざまなコンペにお誘い頂き、出かけていきました。

夢のオーガスタを満喫

大中 ゴルフの難しさに直面しましたか。

溝口 いえ、ありません。楽しいし、ゲーム性があるし。こんなに楽しいものはありません。そして年齢的にもいつまでも出来るスポーツですから、「ゴルフやるならオーガスタ」と決めて、念願を果たしたんです。

大中 「ゴルフやるならオーガスタ」とは、いつ発想したんですか。

溝口 川田太三さんが博多によく来られていましたので、その縁でゴルフも何度かご一緒しました。その時に、「オーガスタに行くのが夢なんです」と話したら、「よし、ちよつとチェックしてみよう」と川田さんが仰つて下さって、行けるように手配して頂いたのがそうです。

大中 旅程は。

溝口 約10日くらいですね。

大中 オーガスタを満喫したようですから、溝口さんも相当ゴルフを勉強した証拠ですね。ペブルビーチには行きましたか。

溝口 もちろんです。

大中 他に有名コースは。

溝口 後はマレーシアのロイヤル・セランゴールでしょうか。それとサンフランシスコ周辺のゴルフ場にはよく行きました。大体4〜5000円でプレイできるのですから。
大中 ところで、今メンバーになっているゴルフ場はどこですか。

溝口 九州電力が運営している伊都ゴルフ倶楽部(福岡県)です。マレーシア・イポーにあるゴルフ場と姉妹関係なので、向こうに行くと全部招待してくれるんです。でも、日本側は少しですがメンバーフィーを取るんですよ(笑)。

大中 それは仕方ないでしょう。名門の悲しさです(笑)。でも、五島昇さんが作ったスリーハンドレッドでは、世界の名門ゴルフ場の会員の方を全部招待したとおもいますよ。やはり世界の名門コースは相互交流して、それぞれの国の政界財界官界



グリーン交遊録

文化人のトップ達が人材交流も図らなければだめですよ。

溝口 人材交流、思い出しました。トヨタの奥田碩元会長ともプレイしたことがあります。あの方も本当に紳士でしたよ。私がバンカーに入ってしまった時も、ご自分でピンを持って下さるんです。ですから、お付きの方が、「会長、ピンなどお持ちにならずに」と止めるのですが、会長は「いいんです。自分で持ちます」とおっしゃって、それに甘えています。

些細なことですが、ああいうところに人柄が表れるんでしょうね。素敵な方だな、と思いました。

大中 今迄で最も長く続いている会と、最新の会を教えてください。

溝口 そうですねえ、長く続いているのは「財界九州」のコンペで、年に2回です。それと福岡銀行や福岡シティ銀行、長崎の第十八銀行などの銀行のコンペですね。その他5つ程声が掛かるのですが、最近はやはりいろいろと会費がバカになりませんのでね(笑)。今はJGAのメンバーになりました。

大中 プロアマの経験は。

溝口 現在は日本シニアのプロア

マに出ています。毎年ですから10回以上になります。

大中 ということは、10年程前の入会だと、当時の会長は東京ガスの安西氏ですね。

溝口 そうです。安西さんです。

大中 もう一度回りたいコースは。

溝口 そうですねえ、出来るなら、やはりオーガスタですね。

大中 では、あまり名は知られていないが、いいコースと言ったら。

溝口 福岡の芥屋(けや)ゴルフ倶楽部、あるいはパサージュ琴海でしようか。

大中 同感ですね。これは持論ですが、コースと言うのはメンバーがつくるんです。歴史です。そしてこれには60年、70年かかります。しかしせっかく築き上げた名門コースも、理事長の品格が悪いと一瞬にして台無しになってしまいますから。

一期一会の精神と感謝を忘れず

大中 ゴルフをやってよかったことは。

溝口 いろんな人に出会えますし、又一緒にいる方の性格が分かることですね。

大中 しかも、ほぼ終日お付き合

いますからね。

溝口 そうですね。しかも学歴や肩書を抜きにして、相手の素の人間性を垣間見られるのも、本当に魅力的だと思います。

大中 45年、年間120回ゴルフをプレイして、一番嫌いなのはスコアを誤魔化す、時間に遅れる人間です。

溝口 私も同感です。それは紳士ではありませんね。

大中 ホールインワンの経験は。

溝口 こんなにゴルフが大好きで、長くやっているのに1度もないんですよ。

大中 私と一緒にですね(笑)。

溝口 あわや、というのは4〜5

回はありますね。30cmとか。

大中 私はカップの半分まで入っていたんです。忘れもしない、水海道ゴルフでメンバーは諸井慶氏、牛

尾治朗氏、日銀の福井俊彦氏でした。

溝口 惜しかったですねえ。

大中 そして福井氏が、その1年後にホールインワンを出したんですが、先日、会食をした時に尋ねたら、「あの後からは遠くなる一方で」と嘆いていました。(笑)

溝口 それは可愛そうですね(笑)

大中 今私は、10回以上一緒にプ

レイした人で、なおかつ「ゴルフとは何か」を教えてくれた人がホールインワンをした時には、記念品を贈ろうと考えています。すでに名簿も作っています。しかも、長いゴルフ歴の中で、ようやく達成出来たという思いを込めたコピーも準備しているの、あとはボールを沈めるだけ(笑) あなたも記念品贈呈の資格が十分ありますよ。

溝口 非常に期待しています。有難うございます。楽しみにしています。時間は誰にでも平等に与えられています。そして人生を有意義に過ごすためには、その与えられた時間を大切にして、どんなことでもいいですから、心豊かな人生設計を立てて歩んで欲しいと思います。たった一度の人生ですから、誰もが人として女として、いつも一期一会の精神を心に、精一ぱいそして自然に生きていただきたいというも願っています。

様々な人との触れ合いが人生を豊かにしてくれます。私の人生を豊かにしてくださった多くの著名な方々、政界財界の方々に改めて感謝したい気持ちでいっぱいです。